

平成23年3月11日以降 日本は変わった

～ 鎌倉は14. 4メートルの
津波がくると予想 ～

先の大震災以降、原発も含めて、日本の考え方は大幅に変わったようだ。これは、何年経っても変えてはいけないと思う。

私も含め災害弱者の立場から言うならば、一人暮らしの高齢者や障がい者のように自分で逃げられない者にとっては、自力で逃げられる人と比較してもかなり厳しいものがある。死ぬのは誰しも怖い、一人取り残されて死ぬのは、もっと怖い。

このような災害が起こった時のために、平成14年度に私が提案し、15年1月より鎌倉市が運用を開始した「要援護者登録制度」に登録している人は、現在1139名です。

震災以降、騒がれるようになったけれど、登録者数は、あまり増えていません。要援護者といっても分かりにくいかもしれない。私自身もその立場にならなければ、分からないかもしれない。お役所言葉なのかもしれない。

要援護者とは、事前に登録をいただいた方に対して、災害時に避難や救助

を円滑に行うなどの対応が可能になります。(自力で逃げづらい方とかパニックになられると思われる方)

提供された情報は、鎌倉市個人情報保護条例に基づき、防災安全部総合防災課が厳重に保管し、災害時以外に使用しません。

また、希望される方に限り、普段から地域の自主防災組織(町内会や民生委員さん)等へ情報提供をします。

さらに、自力での避難が困難な方を支援していただける方も併せて登録していただくことにより安全の確保につなげることができます。

登録は「災害時における要援護者情報提供承諾書」を提出。詳細は、

<http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/sougoubousai/youengo.html>

千一(せんはじめ)の議会における HOW TO (Q & A)

Q. 言葉がしゃべれない千一は、どうやって質問するの?

A. あらかじめ質問の文章を提出しておき、代読していただきます。

Q. その文章はどうやって書くの?

A. 「音声キーボード」を、左足の親指で叩いて、書き取ってもらいます。疲れて目が見

えなくなると、書き取り者の手に、ひらがなで、一文字ずつ、足で書くのです。

Q. 足で?! 時間がかかるでしょうね。

A. 膨大な時間と労力がかかります。足が疲れると、読み取りにくくなり、一文字を理解するのに、何分もかかることも……。

Q. だれが書き取るの?

A. 特定の人を定めていません。過去10年間を通じて「手伝ってみようかな」というボランティアの方々が、声をかけてくださいます。文章は、千一が作ります。

Q. 「影の指導者」とかがいるのですか?

A. いません。大学時代や長いつきあいの友達、恩師たちが応援協力してくれますが、この人たちの多くは、藤沢市民、横浜市民です。普段は、一人で活動します。

Q. 登庁も一人で?

A. はい。毎朝、2時間、介護のヘルパーに来てもらって、朝食や歯磨きの介助をしてもらうのですが、登庁の日は、スーツを着せてもらっています。

Q. お昼はどうするの?

A. 毎日、昼の1時間、ヘルパーに来てもらうのですが、登庁の日は、議員控室に来てもらい、昼食(コンビニのお弁当など)と、トイレの介助をしてもらいます。

Q. それ以外の時間のトイレは?

A. この10年間、議会の休憩時間など、トイレの件では、すごく大変な思いをしてきました。鎌倉市議会は、議員活動と生活介助とを機械的に分け、議会における議員の身体介助を議会事務局職員が行うことを禁止行為としているのです。他市(大阪府豊中市の車椅子議員)の実例などを考え、今後の課題として持ち越していこうと思います。